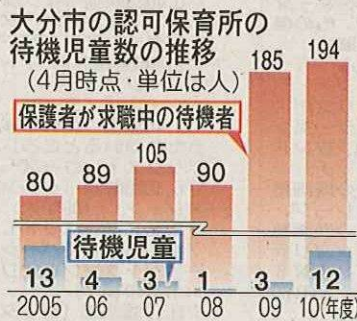


転機の県都

大分市長選を前に

「大分市の子育て環境は日本一だった」。大分市内の認可保育所で長女(2)の入園式を迎えた市内の会社員男性(37)は、そう聞いて驚いた。長女の入園までに約1年間かかったからだ。「日本一」は、実感から程遠い。

男性の妻(34)は、出産を



待機児童の实情

機に休職。娘が1歳を過ぎ、できても保育所に入れない復職しようとして認可保育所にかかったら、また保育所探し申し込んだが、入園はかなのため、妻は長期間、仕わなかった。認可外保育所事ができないのか」とほやに通わせたが高額な保育料や保育時間の問題から、1か月たらずにやめた。

自宅ですることができる出来高制のアルバイトを選ばざるを得なかった。収入は少なく対象とした子育て環境調査になった。男性は「2人目がで、大分市は2005年度

男女共同参画社会づくりの促進を目指すNPO法人

エガリテ大手前(古久保利嗣代表)の全国主要都市を

調査した子育て環境調査

保護者「認可保育所に」

増加するニーズ

から3年連続で日本一に輝いた。08年度は9位、09年度は15位と、順位は下げたが上位をキープ。高評価の理由については、同法人は「(大分市は)小児緊急医療体制の整備に加え、待機児童の少なさも全国トップクラス」としている。市子育て支援課によると、認可保育所待機児童数は、昨年4月時点で12人増やし6226

人とした。数字上は待機児童が解消されそうだが、実際にはゼロになっていない。背景の一つは、市が待機児童数に算入しない「待機者がいることだ。求職中の保護者から認可保育所に申し込みのあった児童数は、昨年の4月、194人。同課は「週4日以上、1日4時間以上就職活動をしていなければ保育に欠ける状態ではないので、待機児童数」とは認めていない」と説明する。

ハローワークプラザおいた(同市高砂町)のマザーズサロンで、子育て中の母親らの就職支援を担当している浜嶋辰朗統括職業指導官は「厳しい経済環境などもあり、母親の就職状況は厳しい。子どもの保育所が決まっていないことが不利に働くこともある。安心して就職活動ができる土台づくりが求められる」と指摘している。 || 終わり ||

(この連載は地域報道部・佐藤栄宏が担当しました)



待機児童の解消が求められる認可保育所。認可保育所で元気に遊ぶ児童たち(写真と記事は直接関係ありません)